



ごてんびないっしき
御殿雛一式

(一宮町教育委員会所蔵)

【昭和10年(1935)代頃か】

平成31年(2019)1月 寄贈



さいじょうだん 最上段が ^{ごてんびな}「御殿雛」と呼ばれる ^{よ ひなにんぎょう}雛人形で、^{めいじじだいまつき}明治時代末期から ^{たいしょうじだいしょき}大正時代初期に
^{ぜんこくてき}かけて全国的に ^{りゅうこう}流行した ^{ひなにんぎょう}雛人形の ^{けいしき}形式です。^{きょうとごしょ}京都御所の ^{ししんでん}紫宸殿を ^も模した ^{りっぱ}立派な





たてもの なか ひなにんぎょう はいち
建物の中に雛人形を配置したものです。

だんめ む ひだり にんぎょう たかさご くみにんぎょう たかさご のう さくひん ひと
5段目向かって左の人形は「高砂」の組人形です。高砂は能の作品の一つで、

あいおい まつ ふうふあい ちょうじゅ め のう
相生の松によせて、夫婦愛と長寿を愛でる能です。

だんめ む みぎ にんぎょう さんじょう こ か じ くみにんぎょう さんじょう こ か じ
5段目向かって右の人形は「三條小鍛冶」の組人形です。三條小鍛冶とは

ようきょく ひと へいあんじだい きょうさんじょう す どうこう さんじょうむねちか いちじょうてんのう
謡曲のテーマの一つで、平安時代、京三条に住む刀工・三條宗近が一条天皇

みつるぎ う いなりやま こも きがん いなりしん あらわ むこうづち
の御剣を打つこととなり、稻荷山に籠って祈願すると稻荷神が現れて向槌をつと

めいとう こぎつねまる う ようきょく くみにんぎょう か じ
め、名刀・小狐丸を打つことができた、という謡曲です。この組人形はその鍛冶

ばめん あらわ
の場面を現しています。

とうじしこく す きゅうしよぞうしゃ かた たんじょう しょうわ ねんだい さい
これらは当時四国に住んでいた旧所蔵者の方が誕生（昭和10年代）した際に

こうにゆう ごてんびないがい か た
購入されたものと伝わります。御殿雛以外のものはのちに買い足されたものとみら

れます。

まいとし がつ がつ むしぼ か いちのみやまちちゅうおうこうみんかん てんじ
毎年2月から3月にかけて、虫干しも兼ねて一宮町中央公民館のロビーで展示し

ています。

